KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

洋学文庫
文庫8
C 388

和蘭影繪 生巵里綺全

三才圖會云紅毛國西北之極畏也其國人色皙髮紅鼻高眼圖而有星常提一脚去尿凡食間卑官鼓舞于前以進之其悠々貌如此然皆不長壽凡六十歲者似本朝百歲許而甚希有也未二十者專整家業性精於藝天文地理算術良又戲爲謂加計會者而備座席之興甚有妙也

41- 7845

和蘭影繪於都里伎叙

凡漢土の滑稽ハ我朝の俳諧と一也故姚察曰滑稽猶俳諧也諧語骨利其如計疾出仍而謂滑稽とぞ此滑稽誹諧心裡ふくを言あれバ貌なり容のまゝ言あれバ影繪ゑ形あつて言なきの滑稽ゑ史記曰私求大陰人嫪毐以爲舍人時絮倡樂使毒以其陰關桐輪而行云是其大陰ゑ相の滑を打らけ踊まわりし蔭の陰ゑふうつゑ松葉の形の如く足あり也

陸侯氏四義書

座中挙興み入りうと。呂不韋がさいひつ兒の趣向へ則彩繪の盤鰻なりとい人あり。予笑るとの。阿蘭陀人より高賈を好んで市舶を諸國ゑ通じ。肴顧廻つの酒席小祭ゑ支吾これを斯めつて。此彩繪を巧かて。孔方費ゑ小客応歎待を巧こと。一年長崎より。強飯のきたる序小此一書とその仔細を読ゐて。おいろを頗於都利記ごと。胸ゑ応び標題をその伝ゑ。ろちやくする事とはなり畳。

文化庚午蒼陽

東都逸民

十返舎一九識

附言

たゞめ小世間通用のあり畳を記ものゝ。其伝きより深きを導くの結構ゑ。ようづの藝ハ手馴るを。その奇ゑ至り妙を悟るとるれば。普く児女のこゝろゑ入るゑんでもなりのとぞ。

むづかしく考る人ものゝ。

世中ゑあらんをものゝ悉くその伝きふ搜る術ゑ。師伝をしてハおとるのひ

ゞ死りのこゝ伝をの仕法秘交を並べそるゝて。好士の為ゑ朗まとるゞ。ものゝ

考ゝ世ゑ色ゑれど弦ゝつまゝぬものゝを搜羅して。お俳ゑるせ。茶の口ゑ酒ひく

酒のお肴ゑりと他者のゑ。ものゝ若いもゝんのゞ子とぞ。ゝくなつておとゝのゞ

崎陽圓山
寄合街之
光景

斜陽相臨樹蘭
筵上山泛湖中
人影動靜順画
形容交如雲烟

烏帽
兎
狐
天神
鷹
銚子
座頭
蟹
女
天狗

標記

簪　火爐　提燈　石燈籠　蛇　蝦蟇

杜若　自在釜　竹馬　三階松　雨龍

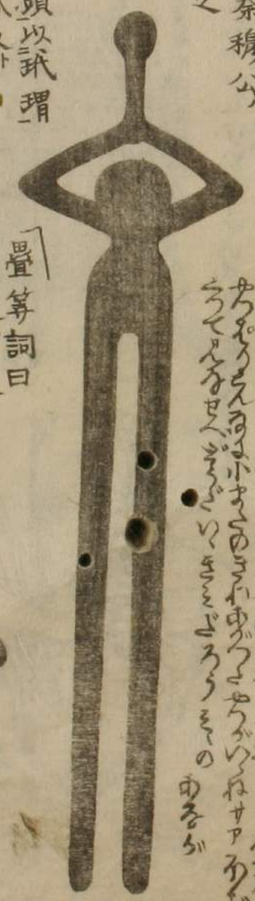
華表　鷺　長脚嶋　長臂嶋　鶴

切子燈籠　橋　蜻蛉

上件

○抵子

古今注曰秦穆公以象牙為之敬王以玳瑁為之始皇以金銀作鳳頭以玳瑁為脚號曰鳳釵



○火爐

三才圖會云火爐俗云火鉢也其製不一可以禦寒可以焙物

○鈔以拘子爲捎箒子

○火鉢以頭爲藥鑵

○提燈

和漢三才圖會云和之製摺提燈其小者曰酸漿提燈亦以扶爲蓋俗呼曰箱提燈張弓曰張提燈

○石燈籠

○挑燈

○石燈籠

穿胸國ハ在盛海東胸ニ有竅尊者ハ去衣ヲ令早着ヲ以竹木ヲ貫胸擡之ヲ

三才圖會其外外國志山海経等ニ見エタリ

○蛇

和漢三才圖會云江海水涯ニ有穴處以為有鰻鱺以千不可捜之握水蛇泥蛇等呼鬻者矣

○蝦蟇

本綱蝦蟇在陂沢中背有黒点身小能跳接百虫鮮作呷呷声挙動極而急ヤ

以上寓言八百万八傳

○蛙（かへる）

「ハイくこれがかへるでござりまするこのかへるはひきかへるでもあり
めまへるでもなく えんのまさるさまざまのところが
ひっくりかへるやのでござりまするちと
ぶさまなかへるでござりまするちとく
こちらひかへまするがくるの
つぶへかりでござりまする

○蛇（へび）

易簡方ニ蛇人之竅（きやう）中ニ入ヲ記セリ

「これくへびはあなだへはいるものときいてござりまするが
あのもとうぞそうかゝるみとをつけてそいつ
てくめのぞせうくへふあるもとへふへふあるへく つもりぞ

「おかへはこれでもさく
よくござりまし
かへるそうろ

「かへるひよこく
こひよこく
めかせて
ひよこく
あひよこく

○燕子花（かきつばた）

杜若（かきつばた）と書て岩井（いはゐ）半四郎（はんしらう）が俳名（はいみやう）として
紫（むらさき）の色よき江都（えど）の名物（めいぶつ）
りの立派の名男（なをとこ）も
延（のべ）るがせしは
中八つでしの
かきつばた
それ三河路（みかはぢ）
ちまきや大和屋（やまとや）

おのづから世界（せかい）のこの紫をひらきけり
江戸（えど）紫（むらさき）村乃杜若（とじやく）石なき

柴舟庵一蝶

「ちよつと此間のおまへのうちへかきつばたをさかせて
おめあてよりおとこといふものをこのうちとぶやく
みなちぶをいふはこのめでたの十八公がえどのうへまでも
のまへするかめをみてよりそのすゑのにほへくるものを
このつまらぶちげじやと
いふがよし

○杜若

家傳安本丹　全一冊

十返舍一九製　近日出来

酒罇

似箱而横挾者名指樽

似桶而稜者名匾樽其有両手者名柳樽高長有両手者名手樽又曰角樽

高陽讃

一ツ中を人口のまれど
人をのむこちら耳まで
酒の一樽

十返舍

竹馬

小児所戯之具也因而自幼稚之信友謂竹馬友

ある人の仮名

世の中に人生まれてそれぞれ
なりわいをなす中にも

○角觝圖の如し

○竹馬

山海經云桑利国在二目国之東一臂国同一足也竹馬畜相似

○鶯

諸山記云鶯如鴝鵒而色蒼毎至正二月鳴曰春起至三月止鳴曰春去採茶之候也呼爲報春鳥

鶯の夢
やアさといえてるとぞ

○梅之雪

○自在釜

名物選曰山家者不用竈而構火燵席中每絙下一鎖以爲炊爨其繩設機升降自在故號而謂自在

手嶋先生の狂奇

自由自在なるうごくおどる茶釜

○自左

もゝとであさまがいろりのそばよりのさゝをとりけべ
ゴテこの子どもらァやゝまいのがせあづちとそとくぐくあそびおれとの又たゝをくいけさゝら
ぎくいりさニろのくエゝきづみもたゞみちさんめとニろのくあづてこそくだすーむろゝくくんのある
あよろうづうゲめづらーゝゝくゝようぬぶたるゲどうまれるとアちりもやどサアのろまどのちとより
てうせのだんでもさろーあいコリヤ〜
ゝさこちゝんようふつろふくもど
おのれがそのあさまるを
のれんでふれてこまるりのコレおさん
てめくもりくぐのれくりのごぢもだんひとつめらふとつて
えんのようきとこぐるとアるいよめくちづりるるで
山うらこどうてくるやねとれちづくぞせをどづくそやて
おくのごさをつけろくこりヤこめくひめくそのこさうだんとづる
のよもさめぞけづるとりひとづめろりのろぞふくぞそのとーぞ
めーこさをーてめろりふくーせうとをゆうせるやつくぐ
いろうみゝふいさまのおろげでくやくこのこげんどうとろこのこ
ろのまのぐくイヤもくくのぐづぜうふくろふきこあるこどぶ
こうーのいころうとにうふころが大きいうめぐ手をいれるるゝう
ヒぶんめぐろうりれてやん〜アくろんまりぐくー

ゝいゝもちくえんむろう
ちれといゝふとおりつそ
のるうちをあさまの
こどぞこのまんてうを
うめて
ちゝまろ

○華表

梅さくろヤ
ちゝあろうふ
古中ー

スルカ・府中
合俯

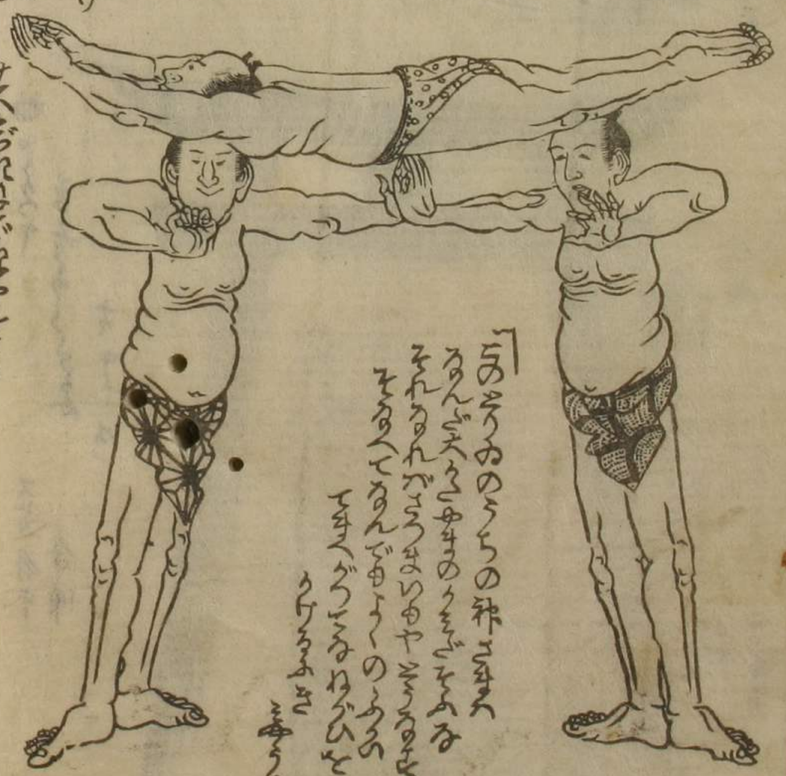
毎年極月晦日
の夜就まの狐
王子の社へあつまり
多屋のうへとこびて
こえんとあふこえ
りこびとゆうめ
あいこうえんのセーまム
とりひつこム

モシそのさろゆぐあろ
うぐさとうろてうくきろく
ぐきさもきくこびとくれ
そこふきころこ孫
いりヤアおゆくきうゆぐろ
つまうゆげをきまムミそろ
ど考びうくこびとある
こーこうゆうひこ
とりろいうろぐさ
でもうんでも
いうゝ〜〜

ちゝ天さるのおつむりよろいのあのハろいと
ろんてんの天のしふこうさあさおしこん
てんーゆくろうを弟ぐうの大のしのうこち
ふこくんをとで大のしりは移こぐくらぐ
ゆんそーれいりよろーー太のしりさんの
のまちぐくふちゝんろくに之と点がある
ろうちのしよりやをそのこんがまろ
まろまくふのひくく木のしゝありやを
そこで木のやうゆろくらゝ母いまろ
天のしるくさつゆうみたうぐいを
さーてうるうう大のしの
のくゝ

くくぐいのこんと
天のしくろうへべこんさるの
てんのしこれぐちーのぐひて
ゆちふしろ まくゝ大きゝ
ゝまちけゞ あろゆ

○駒居



○長脚

三才圖會云
長脚國在赤水東
其國人与長臂國近
其人常負長臂人入海捕魚
蓋長臂人身如中人而臂長二
丈以類樵之長脚亦可三丈矣

○長臂

三才圖會云長臂國在焦僥国東其国人在海之
東人垂手至地昔有人在海中得二布衣袖各長丈余

○足長

○茶磨

日本紀推古天皇十八年高麗僧曇徴来造碾磨此其始也其石出於摂州御影者最佳也雍州伏見城山之石密理堪為茶磨

○時計

○茶臼

○時計

○孤松

十返舍一九

○ 松

○ 螭龍

本艸 龍有鱗曰蛟龍 有翼曰應龍 有角曰虬龍 無角曰螭龍

○あまつあう

「えんと云ふのうへにあまりかたのまあるくしてあるものとうつくしきねをもつてひねくりたるやうなるものなり」

淮南子曰
牛哀ト云
者化シテ虎
トナル又郡
國志曰藤州
ノ夷人往往ニ
軀ニ化ス軀ハ小虎ナリ
其外唐書廣州記等ニモ
人ノ屍ト化スル事ヲ記ス今此二人ノ螭龍ト変スルー無ニシモ非ズ

「えんなるぶりをしたる女がわれとしてあれもとこのひかりぐるまをとこのみるかたちをとりて」

「モシこんなるうるわしのところをおもうてまつるえんをつくりのいろのしるしのくらぶのいろのところでありひがかたちくしやめ」

○霾

「とのはるのけぶりたちうかぶふりでき
そうなるあめさくさうかうろうちの
どこうでしてたるうつ
あとのけまちろげてさもや
ぜんをさとかーきらら
もうもうとれてしてたん
ちうらみおろうぶ
あうろうひーら
おきぶるえさちろて
さうませ
あうへうろうふ
めでたのうろる
千穉菴三陀羅

蓬萊の山ハ
天
華のぐる

「ちーさ山さきるのちうしるをちうをうろ人てあそうあちうと
をそうろれでまあちうと
ゆとをあるりめうーその
ところのあしうろるものみ
ーうぬれどもあるだる
ちうのおうーじとれを
うそれがおせうーげうく
えんぐうーうふあとうハ
うでぐうーうちーつる
みそうあうろ
ちうぶあうそく
そうみ
ものーか

○岐里古

和漢三才圖會ニ云岐里古燈籠聖靈祭等用之所飾紙猶甚華美ナリ

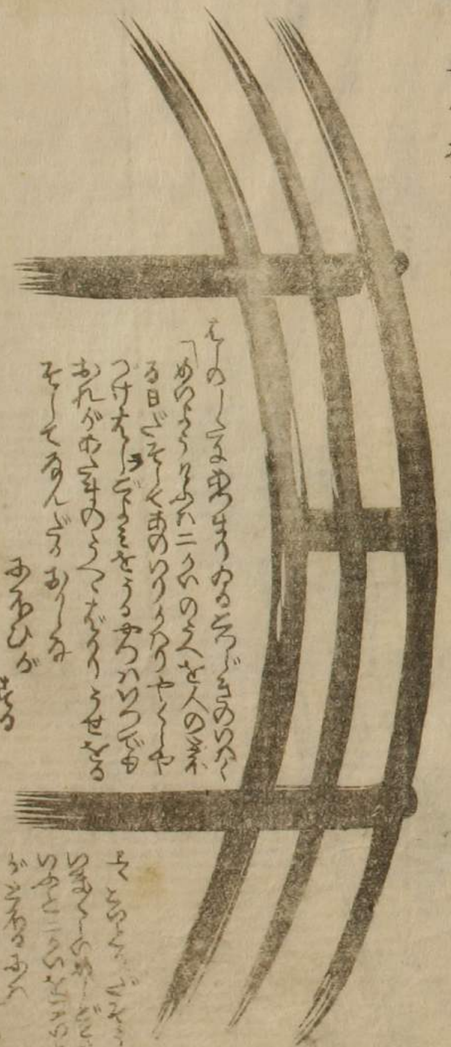
○ 蠶

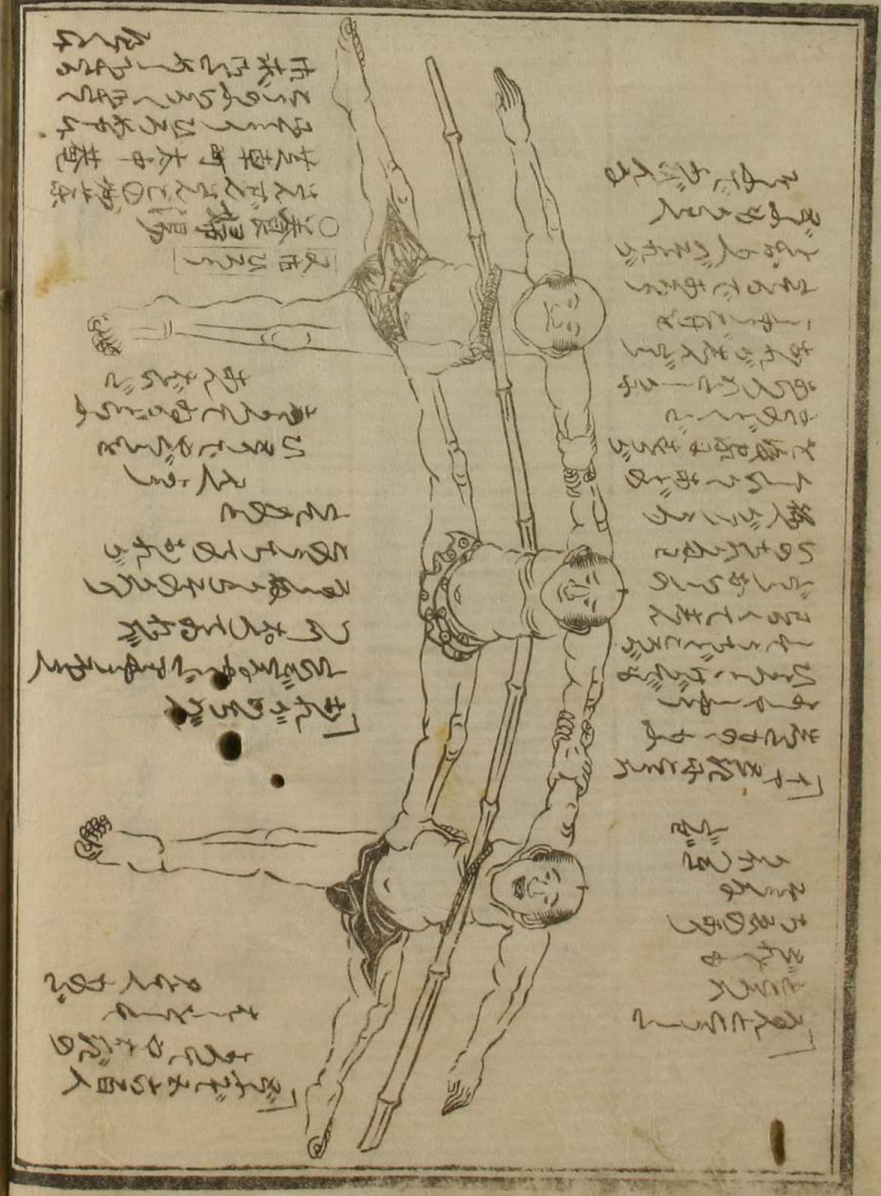
○切子燈籠

○ 橋

和漢三才圖會云橋水梁也原始曰堯時作橋濟濱川以便往來

日本紀云仁德天皇十四年造橋猪甘津即号其所曰小橋是始也





○蜻蛉

本綱有五六種皆六足四翼大頭露目短頸長腰觜尾翼薄紗食蚊虻飲露水博物志所謂五月五日埋蜻蛉頭于戸内可化青蛛未知然否

和歌所稱
加外呂布
著遊孫一名陽焰
凡春日映屋
擔而彩閃閃
無定象以皆
雷光是也
非蜻蛉

十返舍一九

田舍芝居言葉孔あり法皇
二冊
近刻

作者画工 喜多川月麿

筆耕 伯樂街 鈴木武筍

一九先生背長昂名伍郎八渾名反齒世人遭于先生則稱十返舍大人蔭而與一九目謂呼捨蓋先生之其質也慾心漫々而以用竹把之書仰故若有金談命則可知有融膏坊丹項堂裏也爾云

榮邑堂醉中寢轉誌

在之嶋土産後編 十返舎一九作 全二冊 出来

金昆羅参詣 續膝栗毛初編 同作 全二冊 出来

岐蘇街道 續膝栗毛二編 来来春 出版

紙者山街道を通行ハ二十ヶ年以前のふりて今悉く忘却し色を緑と仮りて仍て再年上京の序めるをもつて往来毛ふたの街道を歴て彈く知己の人を易と遐甫一万るを委して此色を著さんとす故ようその理をもつてこれをるものなり

文化庚午初陽 江戸書林 江戸通油町 村田屋次郎兵衛版